

たこつぼ症候群における冠微小循環障害の検討

¹社会医療法人近森会 近森病院、²社会医療法人近森会 近森病院

山本 彩織¹、清水 速人¹、小松 千尋¹、酒井 愛莉¹、鈴木 結香¹、樫本 浩之¹、近澤 香奈¹、川井 和哉²

【目的】たこつぼ症候群における発症時期別のIMRと左室機能との関連を検討した。【対象】当院で2022年1月より2026年07月までに冠微小循環障害を疑いIMR計測を施行した597例中、たこつぼ症候群と診断された55例を対象とした。【方法】IMR陽性/陰性群に分類し検討する。1.冠危険因子について検討する。2.たこつぼ症候群の発症時期を心電図変化より超急性期(1日目)、急性期(2~3日目)、亜急性期(1週間以内)の3期に分類し、有意な差がないか検討する。3.たこつぼ症候群55例のうち、LVG造影を行った38例について左室駆出率(EF)との関連について検討する。【結果】1.IMR陽性と陰性間で冠危険因子について有意差は認めなかった。2.発症時期別の平均IMRは、超急性期 31.13 ± 16.38 、急性期 26.94 ± 13.25 、亜急性期 19.0 ± 10.65 であった。超急性期ではIMR陽性19/30(63.3%)例、IMR陰性11/30(36.7%)、急性期ではIMR陽性8/16(50.0%)例、IMR陰性8/16(50.0%)例、亜急性期ではIMR陽性2/9(22.2%)例、IMR陰性7/9(77.8%)例であった。超急性期と亜急性期で有意差を認めた。 $(p < 0.02)$ 。3.たこつぼ症候群のIMR陽性20例、EF:48.7%、IMR陰性18例、EF:52.8%であった。IMR陽性はIMR陰性と比較してEFが低い傾向を認めたが、有意差は認めなかった。【結論】たこつぼ症候群では発症早期にIMRが高い傾向を示し、急性期の冠微小循環障害が関与する可能性が示唆された。IMR陽性ではEFが低い傾向を認めたが、有意差は認められなかった。IMRには様々な要因が考えられ、今後は他の検査データ等についても検討を行っていきたい。